

## 特

## 長

- ・「高光沢・肉持ち感」を持つ高級感のある美しい仕上がりになります。
- ・積雪、滑雪などの厳しい自然環境に耐える高い耐久性があります。
- ・速乾タイプなので、冬場の塗装においても高い作業性・光沢感が得られます。
- ・粘性の最適化により仕上がりと作業性が良好です。
- ・硬化剤を入れる手間や残ネタのムダがない便利な1液タイプです。
- ・常備色10色の豊富な色展開により、街の景観を豊かに彩ることができます。
- ・有害重金属の鉛・クロムを配合していません。

## 塗料性状

色	茶褐色					
密度(g/cm <sup>3</sup> )(23)	1.00					
光沢	つや有り					
引火点	41					
発火点	288 (参考値)					
消防法表示	合成樹脂エナメル塗料					
危険物区分	第4類 第2石油類(非水溶性)					
危険物等級	III (火気厳禁)					
有機溶剤区分	第3種					
毒劇物表示	-					
有害物表示	-					
国連/指針番号	1263/128					
環境性能	クロロヒドロキシン スチレン(モノマー) フタル酸ジ-2-エチルヘキシル フェノフタル酸	配合せず 0.1%未満 配合せず 配合せず	ホルムアルdehyド パラジクロロベンゼン フタル酸ジ-n-ブチル ダイアジノン 鉛	配合せず 配合せず 配合せず 配合せず	トリエチルベンゼン テトラエチル アセトアルdehyド	配合せず 0.4% 配合せず 配合せず
T VOC	45.9%					
商品ラインナップ	チョコレート(N)、コーヒーブラウン、サニーレッド、エンペラーブルー、セルリアンブルー、ノアール、モスクワーンS、サーフグレー、ブラック、ナイスブルー					

・塗料性状に記載の数値は、全て代表的な色相、つやを想定しています。

## 塗装基準

荷姿: 14kg  
希釈剤: 塗料用シナ-A

塗装方法	はけ、ワールローラー、エアレススプレー塗り			
希釈率	5~15%			
使用量	0.12~0.18kg/m <sup>2</sup> /回			

・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。

・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるよう使用量・塗り回数を調整してください。

・使用量は次を目安にして下さい。鋼板屋根: 0.12~0.14 (kg/m<sup>2</sup>/回)、スレート屋根: 0.15~0.18 (kg/m<sup>2</sup>/回)

## 乾燥時間:

指触乾燥	5~10	23	30
塗り重ね乾燥	90分	40分	30分

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

## 注意事項

- ・水切り部で屋根材の重なり部分に塗料が付着し詰まっていると、漏水の原因になります。皮すき、ケレン棒、カッターなどを用いて溜まった塗料を除去する縁切りを行ってください。
- ・水洗い後は、1日以上乾燥させてください。また素材表面が雨、露などで濡れている場合は、十分に乾燥するまで塗装しないでください（光沢低下、膨れ、割れ、はく離の原因となります）。
- ・下地調整が不十分だと塗膜はく離の原因となったり、光沢が出ないなどの仕上がり不良になる場合があります。塗り替えでは必ず素地に近づけ9.8 MPa (= 100 kgf/cm<sup>2</sup>) 以上の高圧水洗か金属ワイヤブラシなどによるケレン後、水洗いを実施し、付着物、劣化塗膜や基材の劣化物を十分に除去してください。
- ・昼夜の温度差が激しい時期や、山間部など夜露の早く降りる地域では、結露によるつや引け現象が起こりやすいため、早めに塗装を終えて十分に乾燥時間を確保してください。塗装後早期に結露の影響を受けると光沢低下や膨れ、割れ、はく離の原因になります。
- ・塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・経年劣化や下地の劣化が著しい場合は、「ニッペファイン浸透造膜シーラー」、「ニッペファインパーフェクトベスト強化シーラー」をご使用ください。
- ・シリコンベスト強化シーラーをご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により旧塗膜を侵し、溶剤膨れや縮みなどの異常が発生することがあります。試し塗りなどでご確認のうえ、本施工を行ってください。
- ・粘土瓦（いぶし瓦、釉薬瓦など）には使用しないでください。  
なお、洋風コンクリート瓦については、最寄の営業所にご相談ください。
- ・下塗り乾燥後、ガムテープで基材のはく離がないかチェックし、はく離がある場合は、再度下塗りを塗付してください。
- ・なみがたトタンの山の部分やトタン板の継ぎ目、折り曲げ部分は、膜が薄くなりがちです。先に拾い塗りするのが長持ちさせるこつです。
- ・トタン素地が見えている所、さびの生じている所はケレン後、必ずさび止め塗料を塗装してください。使用できるさび止め塗料については、各塗装仕様書をご参照ください。
- ・塩ビゾル鋼板の上の塗装は、避けてください。ただし、経年でつやが引けているような塩ビゾル鋼板に対しては、変性エポキシ樹脂プライマーを下塗りに使用することで塗装できる場合があります。詳細は事前にご相談ください。
- ・積雪の荷重を最も受けやすい軒先の部分、瓦棒の凸部にこすり付けるように増し塗りを行ってください。
- ・塗り替え後は、滑雪性がよくなる場合があります。積雪時にまとまった雪が落ちる可能性がありますのでご注意ください。
- ・無石綿スレート板に塗装すると反りやクラックが発生する可能性があります。
- ・十分な塗膜性能を確保するため、規定の使用量をおまもりください。
- ・ごみ・ほこり・砂・油・樹液などは、塗装前に水洗い、溶剤拭きなどで十分に除去し、乾燥した清浄な面にしてください。
- ・さびは、ワイヤブラシ・サンドペーパーなどで入念に除去し、膨れ・割れの発生にも注意し、十分なケレンを行ってください。
- ・所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
- ・異なる色相を塗り重ねる場合（例：1回目の上塗りを塗装してから、別な色相でラインや帯などを塗装する場合など）2回目の上塗りが1回目の上塗りを侵してラインや帯などが変色（ブリードにより）する場合がありますのでご注意ください。
- ・旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすことがあります。
- ・改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
- ・屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- ・飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- ・はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ・ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- ・塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隔まで入れてください。
- ・汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ・塗装面以外に付着した場合は、乾燥するまでにラッカーシンナーまたは塗料用シンナーで洗い落としてください。
- ・ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- ・塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- ・開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ・塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ・製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。

本書類の内容については、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

本書類中の製品名・会社名は、日本ペイント株式会社、その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。

Copyright (c) 2014 Nippon Paint Co., Ltd. All rights reserved. この書類に対する加筆、修正はご遠慮ください。